

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・輸出が順調になってきたことで、果物の出荷量が増えた。人の出入りはままならないが、物流は戻りつつある。
	○	その他専門店 [医薬品]（経営者）	お客様の様子	・客の動向をみると、良くも悪くも新型コロナウイルス慣れしてきている。ただ、感染対策については、普通に対応している人と余りにも過剰になっている人に分かれている。新型コロナウイルス対策商材が順当に入荷している分、客の表情がよくうかがえる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・外出自粛や感染リスク回避の動きが強まっていることで、来街者の減少が止まらない。例年であれば、年末という季節要因により、売上が通常月の2倍以上となるような店舗においても客が減少している。特に飲食店においては、危機的な状況にある店舗も少なからずみられ始めている。また、カラオケなど、若年層が日中に利用することの多い遊興施設においても、前年と比べて来客数が半減しているとみられる。
	□	一般小売店 [土産]（経営者）	来客数の動き	・12月の売上は前年比26.7%であり、このままでは当社の社員35人が路頭に迷いそうである。国内の製菓会社がワクチンを製造することを期待している。
	□	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・客先からの注文が少なくなっており、客単価も低下している。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が高止まりしていることで、来客数の減少が続いている。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が前月末から急激に減少していたが、12月に入ってから持ち直してきている。年明けもこの傾向が続くとみられる。
	□	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の落ち込み幅が改善しないまま推移している。目的買いでの来店となっているため、今必要とされる商材は売れるが、来客数と比例するような日配食品や雑貨類は苦戦している。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・食品や日用品については、前年と比べても遜色ない売上にまで戻りつつある。一方、衣料品関連については、新型コロナウイルス第3波の影響もあり、外出需要でのファッション衣料、宿泊需要での旅行かばんや服飾関連などのトレンドが一向に上がってこない。売れているのはリラクシングウェアなどの在宅時に使用する商材が多く、客単価、販売点数のいずれも上向いてこない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・第3波ともいえる新型コロナウイルスの感染急拡大もあり、内食需要が高まっているとみられるものの、客の来店頻度はそこまで上がっていない。客がまとめ買いをするケースが増えている一方で、他店との価格競争が激しくなっており、消費動向は予断を許さない状況にある。
	□	スーパー（役員）	来客数の動き	・この数か月、来客数の減少、客単価の上昇という傾向に変化はみられず、売上も前年を2～3%程度上回って推移している。ただ、飲食店関連の業態が非常に厳しいなか、食品小売業も売上がやや減少しているように見える。年末までの4日間の売上が大きいため、これから大きな影響が生じるのではないかと懸念している。
	□	スーパー（役員）	販売量の動き	・客の在宅比率が高まったこともあり、年末商戦はおせちを中心に前年以上に商材が売れている。
	□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・物販についてはまずまず良い傾向のように見えるが、工事関係や旅行関係の環境が厳しいことから、全体的には来客数が減少している。
	□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・年金などでまとまった現金が入ってきた際に、客が商材をまとめて購入する傾向がみられる。巣籠り需要はみられるが、景気という観点では動きが読みにくい状況にある。

□	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・忘年会や成人式など、スーツの需要が高まるような会合や式典が中止となっているため、店全体の販売量は7割減となっている。
□	家電量販店(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、加湿器や空気清浄機の売上は好調だが、テレビの販売が例年と比べて低調である。
□	自動車備品販売店(店長)	販売量の動き	・自粛が続いているなか、客の必要不要といった行動が明確になっている。来客数や購入単価について、変化のみられない状況が続いている。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、販売量の前年比が芳しくない状況となっている。
□	美容室(経営者)	販売量の動き	・売上は前月よりも多少良くなっているが、時期的な影響とみられる。前年の売上とほぼ変わっていないため、景気が上向いているとはいえ、ほぼ変わらないままで推移している。
□	美容室(経営者)	来客数の動き	・年末年始について、感染拡大地域から帰省した人の受入れを制限することを予定しているため、来客数が例年よりも減ることが見込まれる。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の様子をみると、やはり新型コロナウイルスの影響が大きい。新型コロナウイルスの問題が解消されない限り、この状態が続く。
▲	一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンでの札幌市除外に加えて、年末年始におけるGo To Travelキャンペーンの全国一斉停止により、3か月前に前年の7割程度であった売上が、現在は3割を下回る状況にある。年末年始の乗降客数が前年の50%程度と見込まれていることから、12月の売上は良くても前年の3割から3割5分になるとみられる。
▲	コンビニ(エリア担当)	それ以外	・今年は新型コロナウイルスの影響で飲食店への販売額が減少しており、年末の需要がなくなったことで減少幅が大きくなっている。また、Go To Travelキャンペーンから札幌市が除外されたことで、それまで回復傾向となっていた観光地、ホテル近隣の店舗での売上が再び大幅に減少している。
▲	家電量販店(店員)	来客数の動き	・12月はプレミアム付商品券の利用可能期間と大売出しが重なったことから、目的買いの客が多くみられ、来客数、売上のいずれも前年を上回った。ただ、そうした特殊要因を除くと、景気はやや悪い。
▲	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が懸念される。
▲	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・例年10~11月がタイヤ交換時期ということもあり、12月は落ち着く時期である。今年は新型コロナウイルスの影響でGo To Travelキャンペーンで札幌市が除外されたことなどから、自粛の動きが強まり、客が散歩することをしづらくなった。そのため、車を勧めづらくなり、例年と比べても景気が戻すばみになっている。
▲	乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、不要不急の外出を控えるように要請されているため、客の動きが良くない。
▲	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス第3波の影響で自粛の動きが強まっていることもあり、販売について動きが悪くなってきている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス第3波の影響により、全般的に外出機会が減っている。収束するか、対処法が確立するまで、安定した売上は見込めない。
▲	通信会社(企画担当)	来客数の動き	・現在、店舗では予約を原則としていることから、ショッピングモールや郊外型スーパーへの出店販売により客への声掛けを行っているものの、秋以降、光通信サービスにおける集客が悪化している。

▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・これまでGo To Travelキャンペーン利用者が好調に推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、Go To Travelキャンペーンの全国一斉停止のアナウンスが出たことで利用者が一気に減少した。Go To Travelキャンペーン開始前の来客数が例年の30%程度だったのに対して、12月は26日現在で例年の27%程度となっている。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・12月の繁忙期においても予約制限を実施することで密にならないように調整しているため、売上が上がらない。また、新型コロナウイルスの感染状況が悪くなり、自粛要請が出たことで、客の来店周期が長くなっている。そのため、例年のような売上は望めない状況にある。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大傾向が続いているなか、Go To Travelキャンペーンの全国一斉停止が決まったこともあり、人の往来が減少している。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客の商談に要する時間が以前よりも長くなっている。購入するか否かの意思決定をできない客も増えてきている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・自粛要請が出てから街の人出が極端に減った。同時に来客数も大幅に減った。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・北海道では何度もどこの地域よりも早く自粛要請を受けていることから、どこの地域よりも経済が弱体化している。今回の外出自粛要請により、本来1年間で最も稼ぎが多くなる12月の忘年会、クリスマス、年末の需要全てを失うこととなった。企業存続を考える上で、このことは致命傷であり、今後の事業継続が根本的に困難になる事態である。今は景気がどうとっている場合ではなく、企業の存続が1番の課題となっている。既に企業努力の限界は超えている。
×	スーパー（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数の減少が続いている。当社に関連する飲食業や物販業者においても売上の減少幅が拡大している。賃借で入店している事業者では、家賃支援給付金で家賃を補うことができず、賃料減額の交渉を続けている状況にある。
×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で全体的に来客数が減っている。1つ目の理由としては客が新型コロナウイルスの感染を避けていること、もう1つは観光地などに立地している店での来客数の落ち込みが大きいことが挙げられる。
×	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・基幹産業の低迷が続き、客の購買意欲が低下していることに加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により観光関連や飲食店などに大きな打撃が生じているため、客の動きが非常に鈍くなっている。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止により、観光客の入込が悪くなったことに加えて、当地の感染状況も悪化しているため、夜の宴会、集まりが全てなくなった。今後も景気は悪化するとみられる。
×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北海道の新型コロナウイルス感染者数は減ってきているが、飲食店利用は落ち込んだままであり、売上が前年比30%を下回るほど、景気が悪い。ランチはこうした状況でもそれほど悪くないが、夜は営業時間を短縮したことで振り客が減少したほか、個人客、団体客の予約キャンセルが相次ぎ、前年の20%以下となっている。一方、クリスマスは来客数が前年の50%前後となったが、客単価が低いいため、来客数以上に売上が落ち込んだ。退職したアルバイトからは、飲食店関係の求人が増えていないと聞いており、どの店も少ない人数でどうにか営業しているようだ。
×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止に加えて、自粛が過度に行われていることから、景気は悪い。

×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、札幌市との往来自粛要請、Go To Travelキャンペーンの一時停止によって、観光客の動きが鈍化している。日を追うごとに影響が顕著になってきている。また、宴会の自粛により、予約のほとんどがキャンセルとなっており、厳しい状況に追い込まれている。
×	スナック (経営者)	来客数の動き	・客がほとんど来店しないことから、当店も12月末で一旦休業しようと考えている。
×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・札幌市と旭川市を対象とした外出自粛要請に加えて、Go To Travelキャンペーンの全国一斉での一時停止を受けて、これらの前後の期間も含めてキャンセルが大量発生している。さらに、2月以降のGo To Travelキャンペーン延長について、詳細情報の正式発表が遅れたことから、3月一杯までは旅行会社などでの商品設定が行われず、2月以降の予約がほぼ皆無の状態となっている。今年5～6月の影響を大きく上回る経営上の打撃を受けている。
×	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの全国一斉での一時停止に加えて、行政による外出自粛要請の影響により、景気は悪くなっている。
×	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第3波によりGo To Travelキャンペーンなどの施策が一時停止となり、稼ぎ時のクリスマス需要や年末年始需要が大きく抑制されている。現状では、航空便の欠航なども継続するとみられ、年明けすぐからの回復も余り期待できない。
×	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止の影響により、団体旅行や年末年始の個人旅行の中止が相次ぎ、大きな減収となっている。ようやく需要が拡大しつつある段階にあっただけに、今回の影響は大きいものがある。
×	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が全国的に多くなっており、Go To Travelキャンペーンの予約が相次いで入っていた3か月前と比較するとかなり悪い状況にある。客の来店や予約、問合せもほとんどない。元々、数えることができるくらいの予約件数だったが、Go To Travelキャンペーンの一時停止により、それらもほぼ取消しとなり、キャンペーンが始まる前の6月と同じような状況に戻ってしまった。
×	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第3波を迎え、世間の空気が冷え切っている。消費はもちろん、外出も控えなければならない状況下、サービス業の景況感の悪化は相当なものである。先の見通しも立たない状況では先手も打てない。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響でGo To Travelキャンペーンの対象から札幌市が除外されたため、10月に少し戻って来ていた観光客が激減した。また、自粛が続いていることで人の移動もなくなっており、タクシーの利用は減少したままである。例年12月は年末の書き入れ時であるが、今年は繁華街の人出がほとんどないため、売上は前年を50%以上下回っており、相当厳しい経営環境となっている。
×	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第3波により忘年会は完全に自粛状態となった。さらに、飲食店でのクラスターとそのクラスターをきっかけとした家庭内感染が発生していることで、昼間の人出にも影響が出ている。新型コロナウイルスに翻弄されている状況となっている。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客やイベント関係のオーダーも含めて、売上は前年比で9割減となっている。この2～3か月、繁華街では客の流れがどんどん減っており、客待ちするタクシーの台数も減っている。飲食店では営業できないことから、閉店するという話もよく聞かれた。とにかくひどい状況にある。

	×	タクシー運転手	お客様の様子	・ここに来て新型コロナウイルスの第3波がものすごく影響を与えている。当業種は交通関連であるため、不安でならない。新型コロナウイルスが収束しない限り、この先も景気が上向くことにはならない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第3波が生じたことで、年末の会合などが全て自粛となり、人の動きがなくなった。タクシーの稼働状況も前年比で40%のダウンであり、非常に厳しい状況にある。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・不要不急の外出を控えるようにいわれてしまうと客も来店できない。外食産業ほどの保証もないため、不安しかない状況にある。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が再燃し、感染者が増え続けているため、客のムードが非常に悪くなっている。先行きが見えない状況にある。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらず受注が低調に推移している。
	□	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自粛ムードの強まりやステイホームの影響で夏以降の景気は良くなってきている。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、行動が制限されている状況にあるため、家具産業界においても、一本調子で景気拡大とはならない。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・降雪の影響が局地的に出ているものの、今年度工事の進捗は全体的に順調に推移しており、完工高、利益のいずれも前年度実績を上回ることが確実である。一方、新型コロナウイルスの影響による民間建築計画の見直し変更が生じており、次年度繰越し工事の新規案件を受注できていない状況にある。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が、以前よりも多方面の業界に広がっている。飲食、観光のみならず、個人相手の自動車販売業などにも少なからず影響が出てきている。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き売上がほぼ前年並みで推移している。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により特定の業種では厳しい状況が続いているが、全体的な景気は変わらないまま推移している。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年比で15%程度受注が減っている。消費税増税と新型コロナウイルスの感染拡大のダブルで影響が出ている。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事については、年内又は年度末のしゅん工期限に向けて稼働中だが、新型コロナウイルスの影響が長引いていることで、新規着工案件がほとんどなく、全体の工事量が減少している。
	▲	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・秋口までは、全体の物量が例年並みに近づくまで回復していたが、ここに来て減速している。飲料、農産品関連商材については、年末需要で一部に動きがみられるが、生乳、紙パ関連、一般雑貨のトレーラー輸送が伸びてこない。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることが連日報道されることで、自粛意識が強まっていることに加えて、Go To Travelキャンペーンの一時停止などによる実体経済への悪影響が見込まれることから、周囲の企業において閉店、事業規模の縮小、将来計画の縮小や凍結などの動きが出てきた。

	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、札幌市がGo To Travel キャンペーンから除外されたことにより、宿泊・飲食サービス業の業況に悪化がみられる。また、外出自粛要請や札幌市との往来自粛要請が、消費行動の制約やマインド悪化につながっており、道内景気は3か月前と比べてやや悪くなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・主な取引先である建築業、不動産業については、一部の堅調な業者を除けば、取引が低調であり、徐々に景気が下向きになっている。Go To キャンペーン事業が全国的に実施されて以降、感染者数が急増していることが、地方都市の経済に深刻な影響を与えている。また、取引先の多くが持続化給付金を申請しており、このことから景気が下向き傾向にあると判断できる。
	▲	司法書士	取引先の様子	・元々、不動産取引、建物の新增築工事の少ない時期であるが、今年は新型コロナウイルスの影響で低迷したままの状態が続いている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・今年後半以降、新型コロナウイルスの影響が大きくなっている。新型コロナウイルスの感染拡大により、営業活動が制約され、不動産取引が大幅に減少している。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・12月の販売量は前年比マイナス21%であった。3か月前の9月の販売量が前年比マイナス6%であったため、景気は悪くなっている。
雇用 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における11月の有効求人倍率は0.88倍であり、8月時点との比較では0.08ポイント、前月との比較では0.04ポイント上回っており、上向き傾向にある。
	□	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・求人数については、夏以降、堅調に推移しているものの、これは当方からの営業アプローチにより増えた結果であり、企業からの問合せは以前と比べて確実に減少している。求職者についても増加傾向にあるが、スキルの高い人材の登録は増えておらず、コロナ禍において転職について慎重に検討しているものとみられる。また、ここに来て求人企業における採用のハードルが高くなっている。採用による人件費増とその効果を見比べ、人柄や元気を踏まえた採用が減少するなど、採用に慎重な姿勢が強まっている。
	□	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・11月の有効求人倍率は1.28倍となり、前年を0.03ポイント上回った。一方、新規求人数は前年を上回っているが、就職件数は前年を下回っている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大学4年生の就職決定率はリーマンショック以降で最悪となっている。大学生が求める業種からの求人数が非常に少ないことから、未内定の学生にとって厳しい環境となっており、最終的な就職決定率は厳しい数値となることが明白である。また、今年度は内定をもらっていても入社しない学生が増えそうなこともマイナスである。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大に対する警戒心の高まりと自粛の強まりが消費マインドを低下させている。特に繁華街の飲食店でのダメージが非常に大きく、求人件数が半減している状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・11月から札幌市内の感染者が急増したことで、観光産業に再び大きな打撃が生じており、札幌圏の求人は大きく減少している。ただ、正社員求人については減少幅が小さい傾向にある。一方、新型コロナウイルス感染者が北海道全域に広がっているものの、札幌圏以外の求人件数は増加傾向にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地では、医療介護施設でのクラスターが収束しつつあるが、いまだに緊張感のある状態が続いている。例年と比べて仕事量が少ないことから、年末年始休暇を早めにスタートさせた企業も多い。

	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的に新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。医療崩壊につながるほどの状況にあることに加えて、Go To Travelキャンペーンの一時停止などにより、ダメージを受けている産業にとっては厳しさが増しており、関連する産業にも影響が出ている。
	×	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染者数の動向やそれに伴う政策に対応するため、企業や店舗、一般消費者は右往左往している。やむを得ない状況ではあるが、現状は感染者数が減っていないため、明るい材料が少ない。